

## 子宮頸がんワクチン

最近、テレビや新聞でも報道されていますが、子宮頸がんを予防するワクチンが使えるようになりました。当院でもこのワクチンの接種を始めることになりました。

子宮頸がんって？

子宮の頸部(入り口付近)にできる癌を『子宮頸がん(しきゅうけいがん)』と言います。日本では年間約1万5千人が子宮頸がんにかかり、約3500人が死亡しています。子宮頸がんは遺伝に関係なくかかり、性交経験がある女性なら誰でも発症する可能性があります。最近では20代後半から30代の若い女性の発症が増えています。20代から30代の女性にみられるがんの中で最も多いのが子宮頸がんです。

原因は？

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染により起こります。HPVは皮膚や粘膜に感染するごくありふれたウイルスで、100種類以上のタイプがあります。このうち約15種類が子宮頸がんの原因となるため、発がん性HPVと呼ばれています。中でも16型と18型の2種類が原因となることが多く、子宮頸がんを発症している20～30代の女性の約70～80%から見つかっています。

発がん性HPVは主に性交渉により感染し、女性の約80%が一生に一度は感染すると考えられています。ただし、発がん性HPVに感染しても90%以上は体内から自然消滅するため、子宮頸がんに進展するのはごくわずかで、感染者の約0.15%と推定されています。

また、感染してから子宮頸がんになるまでには、通常、数年から数十年と長い年月がかかるので、定期的な子宮頸がん健診を受けていれば、がんになる前の状態(前がん病変)で発見し、治療することが可能です。

子宮頸がん予防ワクチンってどんなもの？

発がん性HPVの中でも特に子宮頸がんの原因のほとんどを占める16型と18型の感染を予防するワクチンです。海外ではすでに100カ国以上で使用されています。このワクチンにより、子宮頸がんの発症をかなり減らすことができると期待されています。

このワクチンの効果がどれだけ長く持続するかについては、現在も調査が継続中です。現時点ではワクチンを接種してから最長で6.4年までは前癌病変を100%予防できることが確認されています。

子宮頸がん予防ワクチンの対象と接種方法は？	<p>対象は10歳以上の女性ですが、性交する前に接種することが望ましいので中学卒業までに接種を済ませることを お勧めします。一回0.5mlを3回(初回接種、初回から1ヵ月後、初回から6ヵ月後)上腕の三角筋に筋肉内接種します。</p> <p>接種期間の途中で妊娠した場合には、その後の接種を中止します。</p>
副作用は？	<p>筋肉注射のため他の予防接種に比べ、注射した部位の痛みや痒み、発赤や腫れの頻度が多く、また強くみられることがあります。全身的な副反応としては疲労感や頭痛、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などがあらわれることがあります。なお、まれにアラフィラキシー様症状を含むアレルギー反応、血管浮腫が認められることがあります。</p>
ワクチンを接種すれば子宮がん検診は受けなくていいの？	<p>このワクチンでHPV16型と18型の感染を防ぐことができますが、全ての発がん性HPVの感染を防ぐことはできません。そのため、ワクチンを接種していても子宮頸がんにかかる可能性はあります。したがって、ワクチンを接種しても必ず子宮頸がん検診を受けてください。</p>
このワクチンで子宮頸がんや前がん病変を治すことはできますか？	<p>治すことはできません。すでに感染しているHPVを排除することもできません。</p>
ワクチン接種にはいくらかかるの？	<p>ワクチンは自費接種で当院は一回15000円(要3回接種)です。平成23年2月15日から中学1年生～高校1年生相当年齢(松山市に住民票がある方)の方は公費補助(無料)で受けられます(現在は高校2年生も公費補助の対象になりますが、平成23年9月30日までに初回接種を済ませてない場合、2～3回目の接種が有料になる場合がありますのでご注意ください)。子宮頸がんワクチンの説明文を熟読され、内容をご理解された上で、接種ご希望の方は、当院では予約が必要ですので電話か当院受付でお申し込み下さい。</p>